

技術は進化し、豊かな社会をつくる

理事長 西河洋一

四月、新年度となり学校や会社ではフレッシュな新たな人材を迎え新しいスタートを切りました。産業界は、安倍ノミクスの経済対策により大手企業を発端に、賃上げ等の動きが始まり、デフレ収束に向け着々と進みつつあります。労働環境も一変し、一部の産業では人手不足の状況となりました。建設業界の将来に向けた大工不足が危惧されている中、ある機関で大工職人の実態に関する報告書が出されました。その中の記述を紹介します。

技術革新で良い機械ができて、大工の技とか能力が必要なくなる時代

「プレカットの普及により新築の現場では、熟練した技術よりパワーと早さが求められるため、高い賃金を得られやすい一人親方の増加を招き、大工技術の習熟度による賃金体系を破壊させた。特に大規模なビルダーの世界では本来持つべき大工技術の習得の機会を得られなかった中堅大工を増加させ、年齢とともに組立工の先にある将来像が見出せず、組立工としての職に嫌気をさして、多くの離職者も生み出している。木造建築を理解し、木材の扱いなど関連する専門的な職能を備えた担い手を育成しなければ、人材の空洞化は今後一層深刻になることは明らかで、健全な市場形成が危ぶまれる」とあります。「プレカットの普及」「大規模なビルダー」が悪で、人材の空洞化を招いているようにありますが、はたしてそうでしょうか？

私の父は大工でした。小さい頃学校が休みの時、父親の工事現場に弁当を持って何時も一緒に行きました。父親の背中を見て育ってきて、父の様になりたいとっていて、将来大工職人になると自然に考えていました。高校在学中に「私は将来、宮大工になりたい」と父に打ち明けました。答えは「止めておけ」でした。「どうして」と問うと「どんどん良い機械ができて大工の技とか能力が必要なくなる時代になる」と言われ、熟慮し夢を断念し、現場監督になりました。

時代の要請にこたえ技術は進化し、技術を活用し、イノベーションで豊かな社会

今、正に35年前に父親が言ったとおりの時代になりました。大規模なビルダーは実は20年前は何処も小さな企業でした。私の経営している会社も15年前は、十数名の小さい規模でしたが、現在は企業統合も経験し、5千名を超える大会社に成長しています。時間が経過するにつれて、技術は刻々と進化していきます。その技術を活用し、時代の要請に答える事ができる所が成長し、そうでない所が淘汰されていきます。

一般住宅を造る大工職人は、昔ながらの大工職人の技能は将来に向けて不要に成りつつあると思います。技術は形を変えながら伝承されます。大工の匠の技は、プレカット技術へ継承され、高度な機械加工が実現されています。

以上